

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	7
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		7
合計		20

訪問調査日	令和 7 年 12 月 8 日 (月)	
調査実施の時間	午後3:30:	午後5:20:
事業所名 (都道府県)	グループホーム桜森荘 ( 山梨県 )	
評価調査員の氏名	氏名 (作成者)	関 直樹
事業所側対応者	職 名	管理者
	氏 名	小林 美幸
ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人		

### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

### ○記入方法

[実践状況]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[次のステップに向けて期待したい内容]

事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、管理者と調査員で話し合い、その事実を記入します。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職 員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200252		
法人名	芙蓉建設株式会社		
事業所名	グループホーム桜森荘		
所在地	山梨県富士吉田市旭1丁目10番3号		
自己評価作成日	令和 7 年 10 月 8 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 7 年 12 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者の生活を支える事業者として、地域との共存を図りながら介護サービスを提供し、地域福祉の観点からも気軽に相談も出来るような運営をしていきたい。高齢者がマイペースで過ごされる中で、自らの意思に基づき自らの能力を最大限に活かして、自立した質の高い生活を送ることができるよう支援したいと考える。  
また、最期まで安心して生活できる場所として利用者・家族にとらえてもらえるよう、医師と薬剤師・看護師・介護員のチームワークで支えたい。  
一人一人が考えて介護サービスが提供できるよう、職員の研修にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族アンケートから「管理者以下職員の対応が大変良い」、「月1回の本人の様子や健康面の配慮の連絡」そして利用者様の入退院時の対応などのご家族から感謝の言葉があります。日々の業務の中で、利用者様やご家族の一つひとつ親切丁寧に接し信頼されていることが伺えます。そんなご家族の声に支えられ、職員は働く意欲につながっています。管理者はそれぞれの利用者様にとって何が大切か、ご家族の思いや意向は何かを常に考え、職員と共に日々取り組んでいます。最低賃金の引き上げ、諸物価の値上がり、利用者様に対する質の高いサービスへの挑戦など、悩みながらグループホーム桜森荘は職員とともに前に進んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流を含む)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含む)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム桜森荘**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、運営方針を事務所内に掲示し職員の意思統一を図っています。桜森荘職員行動指針を定め周知徹底の為、毎日職員が朝礼で読み上げ確認。	理念、運営方針を事務所内に掲示し職員の意思統一を図っています。桜森荘職員行動指針を定め周知徹底の為、毎日職員が朝礼で読み上げ確認。	理念に沿った行動指針があり、事務所内に掲示してあります。行動指針を周知徹底するための取り組みとして、毎日職員は朝礼で読み上げ、しっかり共有しています。実践への評価は半期に1回確認をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	西丸尾自治会第1班に加入し、入居者、スタッフと共に清掃活動等参加。夏の流しそうめん大会や月に1回の体操には、利用者の生活時間帯が合わず、参加していない。回覧板や運営推進会議で地域の行事を把握し参加したい。また日曜日の食材等に関してはできるだけ近所店(魚等)を利用し、利用者と共に購入しに行っている。	西丸尾自治会第1班に加入し、入居者、スタッフと共に清掃活動等参加。夏の流しそうめん大会や月に1回の体操には、利用者の生活時間帯が合わず、参加していない。回覧板や運営推進会議で地域の行事を把握し参加したい。また日曜日の食材等に関してはできるだけ近所店(魚等)を利用し、利用者と共に購入しに行っている。	自治会に加入し回覧板も回り、地域の清掃活動には職員と一緒に利用者様も参加しています。地域の行事として夏の流しそうめん大会などがありますが、時間帯が合わず今後の課題となっています。地域となじむために、事業所はできるだけ地産地消、地域のお店利用を心がけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コミュニティカフェを開放しているが、カフェの運営までは出来ていない。随時、相談対応は行い、認知症の理解、支援の方法等助言。市の協力のもと、オレンジカフェを2回開催。一方コミュニティカフェという場所をうまく有効活用出来ていないという課題もある。	コミュニティカフェを開放しているが、カフェの運営までは出来ていない。随時、相談対応は行い、認知症の理解、支援の方法等助言。市の協力のもと、オレンジカフェを2回開催。一方コミュニティカフェという場所をうまく有効活用出来ていないという課題もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会・民生委員・消防隊長)等の意見を取り上げ、消防団の方々による施設内見学・ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)。また、非常時の介助方法を居室上部にマークで貼り付けを行っている。	入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会・民生委員・消防隊長)等の意見を取り上げている。消防団の方々による施設内見学・ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)。また、非常時の介助方法を居室上部にマークで貼り付けを行っている。	運営推進会議は2か月に1回開催しています。委員会の意見や要望は施設運営に取り入れて質の向上に努めています。消防団の隊長が委員であり、地域の消防団は協力的で施設見学などしていただき、グループホームの理解に努めています。非常時の介護方法は、個々の居室の入り口に分かりやすくマークが張り付けてあります。	いろいろな意見が出されますので、議事録は職員全員が読んで共有できたらと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等の状況を伝えながら、協力関係を構築。	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等の状況を伝えながら、協力関係を構築。	健康福祉課の職員が、運営推進委員で2か月に1回参加しているので、お互いの情報交換はできています。待機者や居室の状況などを連絡しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解出来るよう研修を行い、玄関施錠等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。(内部研修済み)	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解出来るよう研修を行い、玄関施錠等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。(内部研修済み)	身体拘束をしない取り組みが行われています。全職員対象に身体拘束・虐待について練習問題などで取り組み、職員はレポートを提出し共通の理解を深めています。管理者は、スピーチロックは都度注意をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	昨年は身体拘束・虐待防止委員会のリーダーを中心に3か月にわたり、職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行った。今年は、委員会の中での話し合いと全体の研修を行っており、事業所内での虐待が見逃されることのないように、不適切ケアが少なくなるよう努めている。	昨年は身体拘束・虐待防止委員会のリーダーを中心に3か月にわたり、職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行った。今年は、委員会の中での話し合いと全体の研修を行っており、事業所内での虐待が見逃されることのないように、不適切ケアが少なくなるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度については、メディアを使用し自由に研修できるよう導入、その中の研修項目(必須項目ではない)となっている。現在、権利擁護を高めるための取り組みを行っている。過去に1名、包括・社協との連携の下、最期を迎えた時の対応について、樹木葬の場所見学・永代供養等、本人を含めて話し合い対応。	日常生活支援事業や成年後見制度については、メディアを使用し自由に研修できるよう導入、その中の研修項目(必須項目ではない)となっている。現在、権利擁護を高めるための取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム桜森荘**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等取り入れ運営に反映できるよう、ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置していたが、ご家族の目に確実に入る玄関右手に設置。今後も気づいていただけるようご家族に声掛けを実施していく。	意見、要望等取り入れ運営に反映できるよう、ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置していたが、ご家族の目に確実に入る玄関右手に設置。今後も気づいていただけるようご家族に声掛けを実施していく。	玄関ホールに分かりやすく、気づき箱が設置してあります。事業所はご家族の面会時や電話などがあった場合、思いや意向などを聞き取るように努めています。月1回のお便りは好評で、楽しみにしているご家族がいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議をそれぞれ月1回行っており、その都度職員の意見や提案を聞いて反映。またユニットリーダーに意見・提案が行くこともある。	全体会議・ユニット会議をそれぞれ月1回行っており、その都度職員の意見や提案を聞いて反映。またユニットリーダーに意見・提案が行くこともある。	管理者は、日々の業務の中で職員の考えや希望などを聞いています。月1回の全体会議やユニット会議で、忌憚のない意見交換ができ、できるものは速やかに反映しています。意見や要望は言いやすい環境にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように整備に努めている。また外国人の日本語検定にも手当を出していただけるよう体制づくりを行った。	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように整備に努めている。また外国人の日本語検定にも手当を出していただけるよう体制づくりを行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では月に1回研修の機会を設けている。他にメディアを使用している研修も行っている。外国人には言語理解や発音、漢字の練習等も兼ねて日報等も記入してもらっている	管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では月に1回研修の機会を設けている。他にメディアを使用している研修も行っている。外国人には言語理解や発音、漢字の練習等も兼ねて日報等も記入してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は同業者との交流はあったが現在はなし。昨年グループホーム協会に入会。今年度は研修に職員2名が参加。	以前は同業者との交流はあったが現在はなし。昨年グループホーム協会に入会。今年度は研修に職員2名が参加。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度対応し、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。24時間シートや自分史などを活用して把握し、改善方法の検討、支援を実施	認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度対応し、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。24時間シートや自分史などを活用して把握し、改善方法の検討、支援を実施。また、ユニット会議等を通して情報を共有して対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からは在宅で見られていた認知症の症状が入居してから出るのではないかと落ち着いて過ごせるのかといった言葉が多く聞かれます。月1度手紙にて様子をお知らせする、ご家族が来荘された際には気になっている事を聴かせていただくようにしています。その他ご家族が困っている、不安なこと、ご要望には聴かせていただき都度対応しています。	ご家族からは在宅で見られていた認知症の症状が入居してから出るのではないかと落ち着いて過ごせるのかといった言葉が多く聞かれます。月1度手紙にて様子をお知らせする、ご家族が来荘された際には気になっている事を聴かせていただくようにしています。その他ご家族が困っている、不安なこと、ご要望には聴かせていただき都度対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のADLを保つ事を念頭におき、生活の中や個別リハビリの実施が出来るよう計画を見直しサービスの対応を実施をしている。	入居後1週間は24時間シートに本人の様子・思い等記録し対応している。入居時のADL維持と精神的な落ち着きを念頭におき、生活の中の関わり方や個別リハビリの実施が出来るよう計画を見直ししている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯もの干し・食事の盛り付け、食器拭き等家事を共にしてくれる方もいれば、他者のお世話をしてくれる方もいる、また、掃除、裁縫や草取りなどご利用者様が出来ることを職員の目の届く範囲で自由にして頂き、職員も助かっている。	洗濯もの干し・食事の盛り付け、食器拭き等家事を共にしてくれる方もいれば、他者のお世話をしてくれる方もいる、また、掃除、裁縫や草取りなどご利用者様が出来ることを職員の目の届く範囲で自由にして頂き、職員も助かっている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会だけでなく、希望があれば本人から電話もして頂いている。ADLの低下・栄養状態の悪化してる方に、午前のお茶の際にプロテインを飲むことを理解していただき、食事、栄養摂取への契機になる働きかけを行い、しっかり食べられるようになった。看取りの方に対しては、可能な限りご本人とご家族の時間を大切に過ごしていただいた。	栄養状態の悪化してる方に、午前のお茶の際にプロテインを飲むことを理解していただき、食事、栄養摂取への契機になる働きかけを行い、しっかり食べられるようになった。看取りの方に対しては、可能な限りご本人とご家族の時間を大切に過ごしていただいた。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症のリスクが高い時期を除き対面での面会を行っている。友人の面会もあり人と人との関係が途切れないよう支援をしている。また、携帯電話を持っていない方も、自由に事務室で電話を使って頂いている。帰宅願望が強い入居者様に対しご家族協力のもと、日帰りで帰っていただく取り組みをお試しで行う。	感染症のリスクが高い時期を除き対面での面会を行い、時々家族と外食にも出かけている方もいる。可能な限り人と人との関係が途切れないよう支援をしている。馴染みの人や子供たちとの手紙のやり取りはしている人もいる。	対面での面会が可能になり、ご家族と外食をしたり馴染みの場所にご家族と出かける利用者様が増えてきています。事業所は、必要な利用者様には事務所の電話を使用してもらうなど支援をしています。帰宅願望の強い利用者様には、ご家族の協力をいただき関係が途切れない支援に取り組んでいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の適性、関係性を見ながら座る席を決定しています。現在決まって座っていただいている席では会話も弾んだり笑顔も見られるなど入居者様同士でいい関係性を築けているのではないかと思います。	入居者様同士の適性、関係性を見ながら座る席を決定しています。現在決まって座っていただいている席では会話も弾んだり笑顔も見られるなど入居者様同士でいい関係性を築けているのではないかと思います。関係が悪化した際、別ユニットで日中過ごしていただくなど、柔軟に対応している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	5年前にお亡くなりになった方のご家族が、オムツを包むための新聞紙を持ってきてくれる。また、家族から別の方の介護の相談もあった。今後もサービスが終了しても必要に応じ相談ののれるよう、努めている。	サービスが終了しても必要に応じ相談ののれるよう、努めている。(以前、頻繁な医療が必要な状況となり利用が終了した方の、入院先や家族から退院先について相談ののった事がある。)			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に会話をする機会も多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。	日常的に会話をする機会も多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。	日々の業務の中で、利用者様とコミュニケーションをとる時間を作っています。ほとんどの利用者様は意向や思いをお話しすることが可能です。聞き取りが難しい利用者様は、これまでの生活歴や趣味などから話しかけると、思いなどが聞き取れます。ご家族には面会時などその様子をお話しします。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、今までの生活習慣、環境等、ご本人または家族より、自分史を記入して把握。それ以降も、話の中で聞き取った内容を、職員間で共有している。	生活歴、今までの生活習慣、環境等、ご本人または家族より、自分史を記入して把握。それ以降も、話の中で聞き取った内容を、職員間で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化の激しい方にも、出来る限りタイムリーに対応できる様、状態把握している。状況に応じてはオンコール対応している。また、以前は寝たきりで食事も全介助の方も、状態を見ながら介助量を調節し、今ではほぼ自力で摂取できるまでになっている。基本的には入居者様1人1人の能力を見極め、その能力を最大限使用出来るよう支援している。	日々の過ごし方、近々の心身状態の経過を見ながら、現状把握とこれからどうしたらいいかを考えて対応している。また認知症実践者研修で一人をモデルに皆で対応したら、新たな発見があり、有する力の把握が出来た。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。また、薬剤師がよく介入してくれ、減薬できた方もいる。	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。また、薬剤師がよく介入してくれ、減薬できた方もいる。在宅マッサージの先生からのアドバイスもある。	利用者様の思いや意向は日々の中で聞き取り、それを踏まえてよりよく生活するための課題などを全体会議に回ります。利用者様やご家族の意見を反映した、本人本位の介護計画が作成されます。管理者は、利用者様の服薬の状況を見て、不明な点があれば薬剤師や主治医と相談しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別にシステム情報に記録、日報に申し送りをし、職員間で情報を共有、実践の様子を担当者が経過記録を残すようにしている。計画の見直しに活かせるようにしている。情報の共有のため、継続が必要な申し送り表を、ユニットごとに作成し、徹底を呼びかけている。	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別にシステム情報に記録、日報に申し送りをし、職員間で情報を共有、実践の様子を担当者が経過記録を残すようにしている。計画の見直しに活かせるようにしている。情報の共有のため、継続が必要な申し送り表を、ユニットごとに作成し、徹底を呼びかけている。			

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム桜森荘**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一昨年パーキンソン病で発声がはっきりしない方の、相続の話・預貯金の話し合いに金融機関や相続財センターが立ち合い、家族と共に意思の確認と保管場所など確認できた。以降は柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組めていない。	現在はまだ既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組めていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源はあるが、特別、資源の活用まで結びついてはいない。但し、ご家族の面会により、心の支えになってもらったことはある。今後、地域と関わらせていただき、入居者ご本人の心身の力を発揮できるよう支援していく。	地域資源はあるが、特別、資源の活用まで結びついてはいない。但し、ご家族の面会により、心の支えになってもらったことはある。今後、地域と関わらせていただき、入居者ご本人の心身の力を発揮できるよう支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち合いや話し合いの場を持つようにしている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応している。場合によっては、夜間往診にも立ち合っている。	これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち合いや話し合いの場を持つようにしている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応している。	入居時に、ご家族から今までのかかりつけ医のお話を聞き、事業所は協力医療機関の事業所での対応を説明しています。選択はご家族にあり、かかりつけ医の受診は、基本的にご家族に対応をお願いしますが、状況により職員が付き添う場合もあります。各医療機関と柔軟に対応しながら、健康管理に気を付けています。入退院についてもご家族から感謝の言葉があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤(24時間ONコール)しているため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。	看護師が常勤(24時間ONコール)しているため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂・三生会病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報を共有。	入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂・三生会病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報を共有。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせしている。	重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせしている。	入居時に、重度化や終末期のケアについてご家族と話し合いをしています。終末期にはご家族の感情に変化も見られるので、都度、医師やご家族、事業所で話し合って事業所でできること、できないことを共有し、チームで支援に取り組んでいます。ご家族が納得する支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。初回研修に研修を行い、救急対応・感染症対応については実技の研修を年1回程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。初回研修に研修を行い、救急対応・感染症対応については実技の研修を年1回程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなどを把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。	避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなどを把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。	防災訓練を行っています。運営推進委員に地域の消防隊長がおり、地域の団員が事業所を見学に来ているので、事業所の理解は進んでいます。利用者様の部屋の入り口に個々の、一目でわかる避難方法が示されており、いざというときに役立ちます。運営推進委員の協力があります。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応が継続的に出来るよう内部研修をしっかりと行っている。不適切ケアを少しでも減らすために、皆に考えてもらうような内容にし、3か月にわたり研修を実施	人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応が継続的に出来るよう内部研修をしっかりと行っている。不適切ケアを少しでも減らすために、皆に考えてもらうような内容にし、3か月にわたり研修を実施	管理者は、利用者様の尊厳やプライバシーの大切さを守るための職員研修を重ねています。つい言葉がでやすいスピーチロックには十分気を付けています。ご家族アンケートでは職員の対応に感謝の言葉があります。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買いに行っていたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。最近ではドライブに行きマクドナルドやシャトレーゼで好きなデザートをお願いいただいたこともある。	今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買いに行っていたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。最近ではドライブに行きマクドナルドやシャトレーゼで好きなデザートをお願いいただいたこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(共同生活スペースの消灯時間は21時であるが、居室内は自由にテレビを見たり起きてもらっている)。	個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(共同生活スペースの消灯時間は21時であるが、居室内は自由にテレビを見たり起きてもらっている)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪等身だしなみを大切に。その方なりのおしゃれができるように支援している。	頭髪等身だしなみを大切に。その方なりのおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。食事の際、検査を兼ねて職員と一緒に摂っている。	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。食事の際、検査を兼ねて職員と一緒に摂っている。	業者の調理指示書に基づいて、湯せんした食事が提供されています。利用者様は盛り付け、配膳、後片付けなど、できる場所をお手伝いしています。検査者は一緒に食事をとって味や大きさ等に気を付けています。利用者様の希望を取り入れた日曜日の昼は、手作りの食事で大変好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夜間起きたらお茶を提供。こまめな水分摂取を心がけている。	食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夜間起きたらお茶を提供。こまめな水分摂取を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ・舌ブラシ、マウスウォッシュ、ポリドント等。	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、口腔用スポンジ、ポリドント等。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄時間、習慣を把握して声掛け、トイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実践。	1人1人の排泄時間、習慣を把握して声掛け、トイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実践。リハパンを使用していた人も、現在は布パンツで過ごされている。	排泄チェック表を見ながら、利用者様はトイレで排泄しています。排便困難者はできるだけ下剤を使用しないで、おなかのマッサージを試み、自然排便に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操など軽い運動はしてはいるものの十分ではないが、水分摂取の声掛け、整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。	体操など軽い運動はしてはいるものの十分ではないが、水分摂取の声掛け、整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日入浴したい方の希望には応えていない。	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日入浴したい方の希望には応えていない。	入浴日は月曜日から土曜日が基本ですが、利用者様の希望や状況で日曜日の入浴もあります。気持ちよく入浴していただくために曜日の変更はあります。同性介護に努め、職員は会話などで楽しく入浴できるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。食事を少し遅めにとっていたりすることも。また夜間のどの湯き等水分を提供。夜間トイレが頻回で眠れない方も主治医と相談のもと内服薬調整。排泄時の職員のかかわりで、良眠出来るようになった。	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。食事を少し遅めにとっていたりすることも。また夜間のどの湯き等水分を提供。夜間トイレが頻回で眠れない方も主治医と相談のもと内服薬調整。排泄時の職員のかかわりで、良眠出来るようになった。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム桜森荘**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット単位で内服一覧表あり。薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。一時薬が処方されたときにも付箋を張り、一目瞭然の状態にしてある。薬剤師の訪問もあり、医師への助言や副作用の早期発見などにも寄与している。	ユニット単位で内服一覧表あり。薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。一時薬が処方されたときにも付箋を張り、一目瞭然の状態にしてある。薬剤師の訪問もあり、医師への助言や副作用の早期発見などにも寄与している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合い(仕事の提供:おかずの盛り付け、食器ふき、洗濯物たたみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。2ヶ月に1回以上イベントを実施(ドライブなど外出イベントも)。毎日レクリエーションをし体を動かす機会を設ける。	張り合い(仕事の提供:おかずの盛り付け、食器ふき、洗濯物たたみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。2ヶ月に1回以上イベントを実施(ドライブなど外出イベントも)。毎日レクリエーションをし体を動かす機会を設ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事は、何度か行っている。近くへの散歩・ドライブ・外食・外気浴・日光浴も行って庭や表に出る機会は作っても利用者の希望(外食をするなど)に沿ったものではないこともある。外食する際は、家族にお願いしている。帰宅願望のある入居者様に対しご家族協力のもと、お試しにて実際に数時間働っていただく対応をとっている。	外出行事は、何度か行っている。近くへの散歩・ドライブ・外食・外気浴・日光浴も行って庭や表に出る機会は作っても利用者の希望(家に帰る、外食をするなど)に沿ったものではない。好きなものを外食する際は、家族にお願いしている。	外出行事はドライブなど何回か行っています。日常的な外出の散歩は庭に出て日光浴をしたり、近くを散歩したりして気分転換やストレス発散をしています。個々の利用者様の外出に際してはご家族が協力的です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自らお金を持ち使う入居者はいません。但し、イベントや希望時、買い物時にはお金を使えるよう対応している。	現在自らお金を持ち使う入居者はいません。(入居時持っていたが、預けたいとの事で預かってます)但し、イベントや希望時にはお金を使えるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいと要望される方に関しては、自由に電話をしたりしている。	家族に電話をかけたいと要望される方に関しては、電話をしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。	共有スペースの利用者様の表情は、よく笑顔がありません。それぞれの居場所に落ち着いた雰囲気があります。温度、湿度は快適に保たれており、動線には危険を感じない配慮があります。その時々天候によって、天窓の光や自然な風を取り入れる工夫があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コミュニティカフェの活用。最近ではコミュニティカフェに行かれご自身が観たいテレビを観ながら、くつろがれている方もいる。	コミュニティカフェで職員が昼食を食べていると話をしに来る方もいる。気の合う入居者同士と共同フロアで演歌を聞いたり歌ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ・ラジオ、単音・鏡台などの家具、アルバム等)。	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ・ラジオ、単音・鏡台などの家具、アルバム等)。	居室は利用者様それぞれが、馴染みの家具や家族写真、テレビ、ラジオなどを持ち込んで、自分のお部屋という工夫がしてあります。お部屋はきれいに掃除がされ清潔感があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように工夫をしている。	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように工夫をしている。		